

JISS

Spring 2004

国立スポーツ科学センターの活動をお伝えする ニュースレター発刊



国立スポーツ科学センター長
浅見 俊雄

昨年日本のアスリートが世界で大活躍。
彼らを支援するJISSの活動を、
身近に感じてください。

国立スポーツ科学センター (JISS) は2001年4月に設立されて以来、3年を経過しようとしています。準備期間を経て実際に仕事を開始したのは2001年10月になりますが、オリンピック大会などの国際大会で好成績を上げるべく活動している競技団体(FC)及び競技者を、JISSにある科学、医学、情報の機能を生かして支援するという使命を果たすべく、さまざまな活動を展開しています。

昨年は競泳、シンクロ、レスリング、体操、ソフトボールなどで日本の競技者たちが世界を舞台に大活躍してくれましたが、それらの活躍にJISSの支援も多少はお役に立てたかという感触を得ることができました。そして今年もアテネオリンピックの年、そこでのメ

ダル獲得に向けての日本代表選手団の活動に対して、さらに支援を強化していきたく、「JICC」や「JOC」と連携しながらサポートの計画を進めています。

こうしたJISSの支援活動はマスコミ等にも取り上げられるようになり、「JISSのしていること」の一端を知っていただけるようになりましたが、医学、科学研究事業や情報サービス事業など、JISSが何をやっているのかは外からはなかなか見えにくいのが現状です。

今回発刊しましたこのニュースレターは、さまざまな面で展開しているJISSの事業を知っていただくための窓ともいえるものです。まだまだ小窓程度の役割かもしれませんが、JISSを身近に感じていただくためのツールとなれば幸いです。

Topics

DiTS講習会開催

DiTS : Digital Imaging Technology for Sports
スポーツのためのデジタル映像技術

2004年2月21日～22日 国立スポーツ科学センター

スポーツ情報研究部
宮地 力



去る、2月21日～22日まで国立スポーツ科学センターにてDiTS講習会を開催した。2日間で約23人の競技団体情報分析担当のスタッフがコンピュータを用いたデジタル映像の加工についての講習を受けた。本講習会は今回が3回目、毎回受講者を上回る希望が寄せられている。内容は映像編集および映像加工を行うソフトウェアについての講義と実習を中心に進められた。初日はフルトレックオリンピック時に話題になった、違うレースのスキーマの選手があたかも2人同時にコースを滑っているかのように映像を加工するソフトウェアの使い方を、二日目は映像のタイムライン上に情報を付加し、ゲーム分析の支援をするソフトウェアの使い方等の講習を実施した。

講習は好評で、本講習会を通して映像加工の技術をもつ情報スタッフが増え、これとは各競技の分析能力向上に寄与しており、このことが我が国アスリートの国際競技力向上につながるものと確信している。

本講習会は来年度も3回(7月、10月、2月)開催する予定であり、関係諸団体スタッフの多数の参加を期待している。

地域ネットワーク全国会議開催

2004年2月7日～8日 日本スポーツ振興センター

スポーツ情報研究部
荒井 宏和



JISSと地域スポーツ医・科学センターとのネットワーク構築を検討することを目的として、平成15年度地域ネットワーク全国会議が、2月7日から8日に、日本スポーツ振興センターにて行われた。

地域におけるネットワークを国際競技力に役立てているイギリスの事例紹介と、その中心的組織のFCスタッフからの本会議参加者へのメッセージビデオから会議は始まった。

続くJICCの常務理事市原則之氏による基調講演が行われた。市原氏は「JICCゴールドプランにおける環境整備プログラムの中で拠点ネットワークの動向と取り組みに関する考えについて説明され、国際競技力向上のためには、地域のスポーツセンター(JICC、JISS)が積極的に連携することが必要であると述べた。



ここで考えられる連携プログラムを企画した。その中では、各県の事情はそれぞれ異なるが、相互の情報交換や人的交流、オリンピック選手の手サポート等多くのアイデアが提案された。



最後のパネルディスカッションでは「団体選手強化に対する医・科学サポート」の実情について岐阜県、青森県、富山県から紹介された。

今回の会議は、各都道府県の関係者が、それぞれの実情に踏まえた、JISSとの連携に関するプログラムを、自主的に企画立案するといったものであった。

次に、JISSと地域スポーツ医・科学センター等との連携プログラムのモデル(タレント発掘プログラム、地域プロジェクト、人的交流プログラム、プロジェクト研修)について報告があった。

翌2日目は、JISSと地域の連携を構築する上で強みとなる要素、また弱みとなる要素について、参加した各地域担当者からブレインストーミング形式にて意見が出された。

続いて、7つの地域ブロックにわかれ、JISSとの連携プログラムの可能性について意見交換を行なうとともに、そこで考えられる連携プログラムを企画した。



JISS Network Project

国立スポーツ科学センター

スポーツ情報ネットワーク構想

ひとと組織の繋がりを目指して



スポーツ情報研究部 和久 貴洋

世界のスポーツ界のネットワーク化が急速に進み、いまや世界で成功するための知識や情報に「国境」がなくなっている。「世界」と戦うためには、「世界」を知らなければならぬ。すべての基準は「世界」である。

■いま、世界で何が起きているか
オーストラリア、フランス、イギリス、ドイツ、中国をはじめ、世界各国は、世界舞台での成功を見つけている。

昨年 Australian Institute of Sport (AIS) はフランスのナショナルトレーニングセンターである NSEP と、スポーツ医・科学に関する知識の共有及びコーチと競技者の交換プログラムの創設に関する二国間協定を締結した。
イギリスとキューバにおいては、UK Sport Institute-athe Cuban Institute of Sport, Physical Education and Recreation が、トップスポーツの分野におけるエリートコーチの育成、タレント発掘等の面で協力関係にある。また、イギリスでは、国内の大学やスポーツ医・科学センター等の各拠点間とのネットワークを構築し、その地域に拠点を置くトップ競技者に対して統一されたサポートプログラムを供給し、国際競技力の向上に成功している。同様に、オーストラリア、ドイツにおいても、地域州とのネットワークの中で効果的なサポートプログラムを供給している。

■いま、国内では何が起きているか

「Topics」で紹介した地域ネットワーク全国会議の基調講演において、「IOC常務理事の市原氏は、日本の現状を次のように述べた。「いま日本では、各界への競争原理の導入、護送船団方式の規制緩和、自己責任化の促進など、社会の大きな方向転換を迎えている。このような社会の変化は、スポーツ界にも影響を及ぼし、学校スポーツや企業スポーツの後退等、日本スポーツの構造に変化が起きている。」

このような中、文部科学省は「スポーツ振興基本計画」を策定し(2000年)、それに基づき日本オリンピック委員会(IOC)は「IOCゴールドプラン」を策定した(2001年)。「IOCゴールドプラン」は、スポーツ振興基本計画における我が国の国際競技力向上のアクションプランと捉えることもできる。IOCの市原氏は言う。「IOCゴールドプランの本質は、スポーツ界の意識改革＝「自立」と「連携」である。」

■連携・ネットワークのなかで「情報」が動く
「JISS」スポーツ情報サービス事業では、図のようなスポーツ情報ネットワーク構想に基づき「IOC、地域スポーツセンター/医・科学センター、体育系大学、国際スポーツ情報機関等」と連携・ネットワークを構築・強化するために、それぞれプロジェクトを立ち上げ、活動を行なってきた。

「IOC」の連携・ネットワークでは、タレント発掘プログラムの基本コンセプトやオリンピック等の国際総合競技大会における情報支援活動等を具体化してきた。また「IOC」情報戦略部が中心となり、各競技団体の情報戦略部門(テクニカルスタッフや「JISS」情報部門等)の関係者によるメーリングリストを開設した。「JISS」情報部門は、このメーリングリストを通じて、各種の情報を発信し、国際競技力向上のための情報戦略を支援するとともに、「IOC」競技団体及び「JISS」等の関係団体及び関係者の情報交換と共有に取り組んできた。

地域スポーツセンター/医・科学センター等との連携・ネットワークでは、「JISS」IOCタレント発掘プログラムをプラットフォームとして、地域スポーツ医・科学センター主体によるタレント発掘プログラム(福岡モデル)を企画し、初のトライアル実施に向けて準備を進めている。これが契機となり、いくつかの都道府県において、各地域の特徴を生かしたタレント発掘・育成プログラムが検討され始めている。また、地域との連携の基盤としての人的交

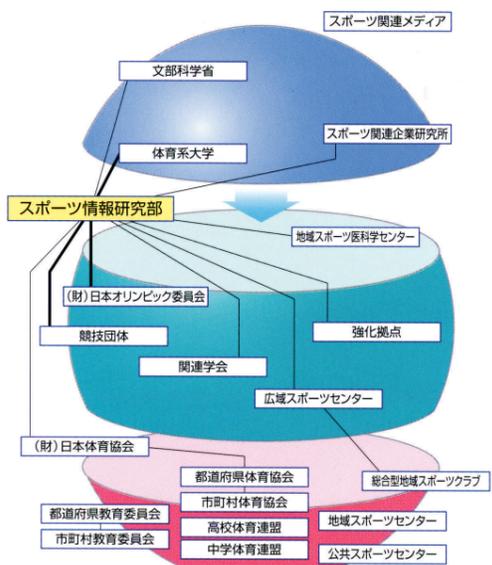
流プログラムのモデルとして、富山県及び福岡県の各スポーツ医・科学情報センタースタッフが、3週間にわたり「JISS On the Job Training」形式の研修トライアルを実施した。

そのほか、先述の紹介した地域ネットワーク全国会議では、会議に参加した都道府県教育委員会、地域スポーツセンター/医・科学センター、「JISS」等の関係者によるメーリングリストを開設し(現在の登録数112名)、世界や国内のスポーツの動き、国内外のタレント発掘・育成、地域における競技力向上の取り組み等の各種情報の交換と共有が行われている。

一方、体育系大学との連携・ネットワークでは、オーストラリア、イギリス、及びアメリカのスポーツ医・科学情報センターと大学との連携に関する調査をもとに、筑波大学と鹿屋体育大学をモデル大学として「JISS」の連携プログラムの在り方について調査研究を行っている。そのプログラムの一つとして、現在、スポーツ医・科学研究を中心としたスポーツ情報収集を行ない、約80件の競技力向上に役立つスポーツ医・科学情報と200件を超える最新スポーツ医・科学研究情報が収集されている。

また、最近の取り組みでは、全国体育系大学学長・学部長会に加入する12大学の参加のもと、「JISS」と体育系大学の連携・ネットワークに関するフォーラムを開催し、「JISS」の連携に関する意見交換を行った。

海外のスポーツ情報関連機関との連携・ネットワークでは、ドイツ、イギリス、オーストラリア等のスポーツ医・科学情報機関とのネットワークの構築のために、関係機関からのスタッフ招聘や国際会議への出席等の活動が行われている。



■ネットワークは「ひと」の繋がりを
「ネットワーク」とは、多数のラジオ・テレビ局がキー局を中心にして組織している番組供給網、コンピュータ・ネットワークの略と定義されている(広辞苑)。英和辞典では、放送網、「網」情報(連絡網)という語彙になる。我々が構築を進めている「ネットワーク」は、志を同じくし、信頼関係で結ばれた「ひと」の繋がりであり、その繋がりによる「情報連絡網」である。

一方、「連携」とは、同じ目的を持つものが互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うこと、と定義されている(広辞苑)。これに該当する英語は、Partnershipが適切であろう。我々が目指している連携とは、異なる組織が共通の目的達成のために、互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うことである。そして、異なる組織を結びつけるものは、共通する目的と、それを実現するためのプログラムである。

JISSのスポーツ情報ネットワークの構築とは、「ひと」と「ひと」の繋がりによる情報連絡網を作り、それを基盤として「組織」と「組織」を繋げるプログラムを作ることである。すべては「ひと」が基盤となっている。



本事業では、スポーツ医学・科学・情報の各機能が統合されたJISSの特徴を活かしながら、国際競技力向上のために有用となる知見を生み出すための研究を行う。研究はプロジェクト体制で実施し、必要に応じて国内・国外の研究者や研究機関との連携を行いながら推進する。

- 先端的トレーニング方法の開発と実践
- スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションおよび予防法に関する研究
- 分野2 評価システムに関する研究
- フィットネスチェックのための基礎的研究
- スキルチェックのための基礎的研究
- 医学的、栄養学的、心理学的指標による競技者のコンディション評価に関する研究
- 競技スポーツにおけるコンディショニングの成功・失敗要因に関する研究
- 分野3 戦略・戦術システムに関する研究
- ゲーム分析におけるフィードバックシステムの開発
- タレント発掘に関する研究
- 国際競技力向上のための国際戦略に関する情報データベースに関する研究

スポーツ科学研究部 高橋 英幸
スポーツ医・科学研究事業



トータルスポーツクリニック(JSSC)は、我が国トップレベルの競技者及びチームの国際競技力向上にむけた活動をスポーツ医学・科学・情報の各側面から支援活動を行うサービスである「チェックサービス」として、メディカル、フィットネス、スキル、メンタルおよび栄養の分野で検査・測定を行い、競技者の心身の状態を科学的に把握できる情報を提供している。詳細な検査測定

項目は、「JISSスタッフと競技団体スタッフ」が話し合っ決めていく。従って、種目によってチェックの項目が異なることがある。データはなるべく受けた当日に本人へフィードバックするよう

スポーツ科学研究部 松尾 彰文
トータルスポーツクリニック事業

Programs of JISS

JISSが進める事業の概要と近況

スポーツ情報サービス事業

スポーツ情報研究部 宮地 力

スポーツ情報サービス事業は国内外のスポーツネットワーク整備、データベース整備、情報普及の3つを事業の柱としている。ネットワーク整備事業は、国内ではIOC、体育系大学、地域スポーツセンター、海外ではドイツの応用スポーツ研究所とイギリス(SEIS (English Institute of Sport))を中心にその整備を進めてきた。

等を用いたスポーツ情報普及を進めている。またこのニュースレターもこの事業の一部である。その他に映像編集やスポーツ映像を用いたパフォーマンス分析、ゲーム分析ソフトの講習会を実施している。講習会については「Topics」その様子を報告している。これを参考にさせて頂きたい。



スポーツ診療事業

スポーツ医学研究部 奥脇 透

我が国のトップレベル競技者のスポーツ外傷・障害及び疾病に対し、競技スポーツに通じたスポーツドクターやアスレティックトレーナー等の専門スタッフが、最新の医療機器を活用して診療を行っている。また「IOC」医学サポーター部会や外部の医療機関との連携により、トップレベル競技者等に対する総合的な診療体制を整備している。

スレティックリハビリテーション科を置き、競技への早期復帰をサポートしている。「JISS」のスポーツクリニックでは手術入院は行わず、完全予約制の自由診療を行っている。利用対象者は、「IOC」から強化指定を受けている競技者および「IOC」加盟競技団体が認める強化対象競技者である。基本的にわが国の保険診療に基づき、3割負担相応の金額を徴収している。



診療科は、常勤医のいる内科、整形外科に加え、非常勤医により歯科、眼科、耳鼻科、婦人科及び皮膚科の外来を指定日に行っている。また整形外科に併設してア

JISSのスポーツクリニックでは開設以来、多くのトップレベル競技者に対して、最新の医療を、十分な時間をかけて提供している。